

H23. 7. 30

鮮血便とタール便

Dr.

和の町医者日記

「便」シリーズ⑤

「血便が出ました！」と声を震わせ慌てて駆け込んで来る男性がいます。女性なら生理で血には慣れていますが、男性は少しでも血を見ると舞い上がる人が多くいます。

「どんな色ですか?」「真っ赤ですか? 少し黒みがかっていますか?」「血液はどれくらいの量ですか?」「便の表面に少し付いている程度ですか? 血液の塊そのものですか?」と根掘り葉掘り聞きます。携帯電話で便の写真撮っていたら助かります。



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る、総合診療を目指す。医学博士。労働衛生コンサルタント。53歳。ブログ (http://www.nagaoclinic.or.jp/doctorblog/nagao/) が好評。

血便に隠れている病気

トンネルのような「痔瘻」が見つかることも多い。次に肛門から直腸にゼリーを塗った指を入れます。そこで直腸がんが触れる場合もあります。男性ならついでに前立腺の大きさや硬さも診ます。抜いた手袋に血液が付いていないかもよく診ます。便に少し血が混じるなら、S状結腸か、少し奥のがんかもしれない。「赤黒い便」というなら大腸の奥の方か、その奥の小腸からの出血かもしれない。「真っ赤な便」と聞けば、なるべくその場で内視鏡を入れます。出血源が

「タール便」 コールタールや炭のような真っ黒な便。最低でも60g以上出血しないと真っ黒にならない。ヘモグロビンの中の鉄が酸化されて黒くなる。胃など上部消化管からの出血を疑う。

性腸炎」という病気を疑います。ただ、腹痛、激しい下痢など急性腸炎の症状があれば「感染性胃腸炎」を疑います。ユッケを食べたことが明らかなら、まず検便で細菌検査の方を行います。もしO157が検出されれば、直ちに保健所に届けなければなりません。

胃をのぞくとちゃんと胃潰瘍が見つかり、その中に破裂した血管、その表面に付着した小さな血塊があり納得します。中には十二指腸潰瘍や胃がんのことも。外来でも止血の応急処置をする場合があります。胃潰瘍からの出血ならば、通常は入院管理下で2〜3日間の絶食、点滴が必要で

肛門に近いからです。浣腸をして直腸の便を除いてから入れますが、下痢をしているなら浣腸も不要。診られる範囲だけとりあえず診ておこう、という考えです。

今回は肉眼的血便の話をしました。検査で分かる微量の血便は「便潜血」と言います。鮮血と潜血では大違いです。血便にはいろんな病気が隠れています。逆に言えば血便でがんが早期発見されて助かった人もたくさんいます。まさに血便さまざま。普段から自分の便はしっかり見てくださいね。

肛門から30〜40センチくらいまで観察できます。その場で出血源が分からなければ、後日、大量の下剤を飲んでもらい、全大腸の検査を追加します。若い人ならまず「潰瘍性大腸炎」、高齢者なら「虚血性大腸炎」。

「タール便」とも言います。タール便の場合、大腸内視鏡ではなく、胃の内視鏡を直ちにに行います。その前にちゃんと聞いておくべき質問があります。それは、「イカすみを食べましたか?」「造血剤(鉄剤)を飲んでいないか?」「整形外

ひょうい